六氏に名誉教授の称号を授与

学園は七月十二日、愛知工業大学名誉教授の称号を一柳勝宏氏、井研治氏、成田国朝氏、正木和明氏、八木明彦氏、山田岳志氏の六人に贈り、本学に対する顕著な功績を称えました。名誉教授となられた方々は累計で七十四人となりました。

一柳勝宏氏（元電気学科教授）

井研治氏（元電気学科教授）

成田国朝氏（元土木工学科教授）

正木和明氏（元土木工学科教授）

八木明彦氏（元土木工学科教授）

山田岳志氏（元基礎教育センター教授）

大学発展に顕著な功績

称号授与式は八草キャンパス本部棟で行われ、後藤泰之理事長、後藤淳総長ら学園、大学の幹部が出席しました。

祝福の挨拶をする後藤泰之理事長

後藤理事長が一人ひとりに称号記を手渡した後、「長く教育と研究に当たり、多くの優秀な学生を世に送り出していただきました。まだお手伝いをいただいている先生方や、学会等で活躍を続ける先生もみえます。これからは今までと少し違った立場で気づいた点、改善点をアドバイスしていただき、愛知工業大学の発展にお力添えをいただければ。ますますのご活躍を祈念しています」と挨拶しました。これを受け、六人を代表して井氏が「一生の宝物と喜んでおります。これからはたくさん時間ができますので、むだにしないよう進めていきます。私たちへの称号授与にお骨折りをいただいた方々にお礼を申し上げ、名誉教授の名に恥じないよう、残された人生を歩みたいと思います」とお礼の言葉を述べました。

この後は全員で懇談し、和やかに近況などを語り合いました。後藤総長が「見るところ皆さんお元気そう。これからもいろいろな面で大学を応援してください」とねぎらいの言葉を掛けました。

ねぎらいの言葉をかける後藤淳総長

吉村真晴選手がリオ五輪卓球男子団体銀メダル

学園卒業生で初の快挙

吉村真晴選手

リオ五輪の卓球男子団体で、愛工大卓球部OB（二〇一六年三月経営学部卒業）の吉村真晴選手が銀メダルを獲得しました。五輪の卓球男子団体で日本男子初となるメダルで、学園出身者による五輪のメダル獲得もこれが初めての快挙です。

中国と対戦した八月十八日朝（日本時間）の決勝で、吉村選手は第三試合のダブルスと第四試合のシングルスに出場。ともに敗れたものの、豪快なスマッシュを放つなど果敢な攻めを見せてダブルスで一ゲームを奪いました＝5面に関連記事。

学園だより
名古屋電気学園
愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次：

中高卓球が制覇 2
キャンパス空撮 3
就職率全国３位 3
最多 3797 人来場 4
母校で五輪応援 5
パラ大会で銀銅 5
ブラックの実例 6

発行所
名古屋電気学園
〒 470-0392
豊田市八草町八千草 1247
℡ (0565) 48-8177

インターハイ卓球　名電が完全制覇

愛工大名電高校卓球部は岡山県総社市で七月三十一日～八月五日に行われたインターハイ卓球競技の男子で、団体・シングルス・ダブルスの全種目に優勝する完全制覇を成し遂げました。名電卓球部のインターハイ完全制覇は一九六八年以来、四十八年ぶりとなります。

団体21年ぶり15度目V

団体戦の決勝は、ライバル校・野田学園（山口県）との対決になりました。一番に抜擢された田中佑汰選手（一年）は、敗れはしたものの相手エースを思い切りよく攻め、いい空気を引き継いだ二番の木造勇人選手（二年）が疲れを見せずに打ち勝つ試合で流れを変えました。続くダブルスを主将の松山祐季選手（三年）と木造選手のペアが3―1で制し、優勝に王手。主将対戦となった四番は松山選手がジュースを制し、歓喜の渦の中、二十一年ぶり十五度目の日本一の座につきました。

日本一に返り咲いた名電高卓球部

シングルスは木造選手

シングルスで優勝の木造選手

シングルスは、名電勢がベスト4を独占。二年生同士の対戦となった決勝で木造選手が高見真己選手を4―1で破り、今枝一郎監督が選手時代に日本一になった一九九〇、九一年以来の二十五年ぶりとなる名電のシングルス優勝を獲得しました。

ダブルスは高見・田中組

ダブルス優勝の高見（右）・田中組

ダブルスは、松山選手・木造選手のペアを準決勝で下した高見選手と田中選手のペアが、決勝で野田学園ペアを3―1で破り優勝しました。

今大会では会場のどこを見渡しても名電の選手が活躍し、その場にいるすべての人に圧倒的な強さを印象づけました。出発前、卓球場で後藤淳総長から温かな激励を受けた選手や指導者は「先生が理事長を代わられた年、何としても頂点に立つ」という強い思いで大会に臨んだといいます。

部を指導して初のインターハイ制覇を勝ち取った今枝監督は「最後まで気持ちを切らさず、作戦変更もしっかり受け止めてくれた選手たちのおかげです」と感無量に振り返っていました。

附属中卓球部も全中四連覇

附属中学卓球部は富山県高岡市で八月二十三日に行われた全国中学校卓球大会団体戦決勝で出雲北陵中（島根県）と対戦、3―1で勝利を収め、全中四連覇、通算で十回目の優勝を果たしました。春の選抜と合わせると全国大会八連勝となりました。

準決勝では中学のトップ選手二人を擁する野田学園中（山口県）と対戦し、3―2で勝利しました。「この二選手との真っ向勝負はリスクが高すぎるため、それ以外の選手から3点を取るオーダーを組みました」と真田浩二監督は話し、1―2の後がない状態で回ってきた四番の横谷晟選手（二年）がプレッシャーに押しつぶされそうな中、最後まであきらめない心で勝利。ラストは主将の中村光人選手（三年）が気迫で勝ち取りました。

決勝は前半の一試合を失ったものの、攻める気持ちを最後まで持ち続けました。「リードしてもリードされても『最後まで最後まで』の気持ちを実行。大会前に行ったメンタルトレーニングの成果は今回も大きな力となり、選手や私を支えてくれました」と真田監督は振り返りました。

シングルスでも横谷選手と曽根翔選手（二年）が準決勝まで進みました。

全中四連覇した附属中卓球部
※写真はいずれもニッタクニュース提供

八草・若水　装い新た

整備が進む両キャンパスを空撮

学園は、整備が進む八草と若水の両キャンパスを上空から撮影しました。昨春完成した新二号館に続き、新食堂棟「セントラルテラス」などが今春お目見えした八草＝写真㊤＝と、体育館・グラウンドが「瑞若スポーツセンター」として一体整備された若水＝写真㊧。装いも新たな学園の全景をご覧ください。

「就職に強い大学」　今年もランク入り

今春の本学卒業生の就職状況は、昨年に続き全国三位と好成績を維持しました。サンデー毎日七月三十一日号に掲載された全国二四〇大学の実就職率ランキングによると、卒業者数一〇〇〇人以上の大学の中で本学は実就職率96・4％（昨年95・9％＝以下同じ）で全国三位、私大では二位、東海地区では一位でした。また、五月二十五日発行の週刊東洋経済臨時増刊号に掲載された過去三年間の累積実就職率ランキングでも、本学工学部が理工系学部で全国三位、私大では一位になりました。

一方、本学キャリアセンターが五月十八日付でまとめた内定状況調査（確定版）によると、学部別の実就職率も工学部97・7％（97・6％）、経営学部92・5％（90・4％）情報科学部94・8％（94・9％）と好調でした。内定率では、女子の工学部と情報科学部がいずれも100％に達しました。

実就職率は、就職率＝就職者÷（卒業者－進学者）として計算し、別の計算法に基づく内定率に比べ数値が低くなる傾向があります。昨年に続く高い就職率について、同センターでは「就職活動スケジュール変更（後ろ倒し）初年度ということもあり戸惑いはありましたが、就職担当教員をはじめとする各教員とキャリアセンタースタッフとの協力体制のもと、地道できめ細やかな就職支援が可能となり、昨年に続く高就職率の実を結ぶことができました」とコメントしています。

※「サンデー毎日」「週刊東洋経済臨時増刊号」ともに大学通信調べ

工学部の学生二人に後藤すゞ子先生奨学金

学園が制定している「後藤すゞ子先生奨学金」の交付が二件ありました。奨学金は元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づき設けられ、親の死去など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるよう支援するものです。

奨学金は工学部の学生二人に対し、六月十四日と八月三十日、いずれも八草キャンパス本部棟で交付されました。後藤泰之理事長が奨学金の趣旨を説明し、それぞれの親に手渡しました。後藤理事長は学生たちに「卒業までしっかり頑張り、自分の思うところに就職できるように」などと励ましの言葉をかけました。交付式には学園、大学の幹部が立ち会いました。

工学部の学生二人に対してそれぞれ交付された奨学金

オープンキャンパスに過去最多の三七九七人

大学の夏のオープンキャンパスが七月二十三日と二十四日の両日、八草と自由ヶ丘の両キャンパスで開催され、合わせて過去最多の三七九七人が来場しました。両キャンパスで各専攻の学生たちによる七十ものデモンストレーションが繰り広げられ、訪れた高校生や保護者に日ごろの研究成果を熱心に披露しました。

音波の不思議な世界に見入る高校生

八草キャンパスでは、増加傾向にある理工系女子を対象にした専用のブースなどが設けられました。静岡県内から訪れた女子高校生と母親は「第一志望と決め、昨年に続いて参加しました。就職率の高さも魅力です」と話していました。在学生による各専攻相談、入試センターによる入試相談などのコーナーも終日人気を集めました。

理工系女子も訪れた専攻デモ

自由ヶ丘キャンパスでは恒例となった「自由ヶ丘キャンパス祭」が同時開催され、近隣の人たちも来場して学生のバンド演奏などを楽しみました。

耐震実験センターでリアルな揺れを体験

「おもしろ実験教室」夏休みの小学生が附属中に

理科が好きな小学生に参加を呼び掛けた「夏休みおもしろ実験教室」が八月二十五日、愛知工業大学附属中学校で開かれました。

実験を通じて科学に関心を持ってもらおうと、理科教師らが初めて企画。「冷え冷えの世界」「色の変化」「音の世界」の三講座を用意し、各講座とも先着で十組の親子を募集しました。

ストロー笛づくりを楽しむ小学生たち

淳和記念館二階の理科室やラボで、参加した親子はジュースをドライアイスで凍らせたり、紫キャベツの色素を取り出した水の色を重曹などで変化させたり。「音」の講座ではストローなど身の回りにある材料で笛を作り、ものづくりの楽しさも体験しました。指導に当たった教師は「自分の知識と照らし合わせ、なぜこうなったか考えてみよう」と呼び掛けていました。

『高大連携』に四百人

進学意欲の向上や大学選択の一助にと「愛知工業大学　高大連携プログラム」が七月三十、三十一両日、大学八草キャンパスで開かれました。連携協定を結んでいる岡崎東、津島、春日井西高校など十九校と名電高校から両日合わせ約四百人の高校生が高大連携特別講義を受けました。この特別講義は愛工大に入学した場合に、一定の条件をクリアすれば単位として認定されるものです。

両日とも午前は全学年共通講座があり、三十日は工学部応用化学科の森田靖教授が「有機物が電池の世界を変える！」と題し、新しい潮流として注目される有機物が主役の二次電池に関して、電気容量の増加、高速充放電、安全性確保などの課題を克服するための取り組みを紹介しました。

高校生に向けて行われた森田靖教授の特別講義

三十一日は工学部土木工学科の小池則満教授が「新しい地域防災への取り組み」と題し、東日本大震災以降、地域防災力を高めるための様々な取り組みがなされる中、緊急地震速報の活用、地域と共に作るハザードマップなど本学での取り組みを紹介しました。会場ではメモを取りながら熱心に講義を聴く高校生の姿が見られました。

午後は各学年に別れての選択講座があり、「眼を鍛えてスポーツパフォーマンスをアップさせる」「日常英会話の落とし穴」「三次元プリンターを用いたおもしろものづくり」など多彩な講義を受講しました。

母校の声援　届けリオへ！　パブリックビューイングで卓球日本を応援

卒業生の吉村真晴選手が銀メダルを獲得したリオ五輪卓球男子団体の試合を、愛知工業大学は八草キャンパスからパブリックビューイング方式で応援しました。試合がライブ放映された準々決勝、準決勝、決勝の延べ三日、会場となった一号館三階視聴覚室に卓球部の後輩や野球部、ラグビー部などの運動部員、教職員らが詰めかけ、地球の反対側で繰り広げられる熱いラリーを見守りました。

決勝は王者中国に3―1で敗れたものの、果敢に攻め抜いた吉村選手に大きな拍手が送られました。大きな声で応援の音頭を取った卓球部の上江洲光志主将は「一丸になって皆の気持ちが伝えられ、自分にもいい経験になりました」と振り返りました。

ライブ放映の大画面に向かって力いっぱい声援を送る学生や教職員

中高フェンシング部がそろって活躍

名電高は個人、附属中は団体と個人で優勝

愛工大名電高校と愛工大附属中学校のフェンシング部が夏の全国大会でそろって活躍しました。

男子個人サーブルで優勝した名電高の森皓己選手

七月二十九日～八月二日に山口県岩国市で行われた全国高校総体のフェンシング競技では、男子個人サーブルに出場した森皓己選手（三年）が優勝。優勝候補の一人と目され、危なげなく決勝トーナメントに進出した森選手は、大接戦となった準決勝を制したのに続き、決勝で北海道代表の選手を15―6で破り頂点に立ちました。

七月二十三～二十五日に東京の駒沢オリンピック公園体育館で行われた第二回全国中学生フェンシング選手権大会では、男子団体で愛工大附属中が前身大会の全国少年フェンシング大会を含めて初優勝を飾りました。

フルーレの太田拓輝選手（二年）、エペの古橋諒樹選手（三年）、サーブルの加藤響選手（三年）の三人が持ち味を発揮し、札幌大谷中と対戦した決勝で一番の加藤選手が勝利、二番の太田選手が1―4の劣勢から逆転勝ちして優勝を決めました。一方、男子個人サーブルに出場した加藤選手は予選から順調に勝ち上がり、決勝戦も15―5で勝利。これにより加藤選手の海外派遣が決まりました。

団体優勝を勝ち取った附属中の三選手

名電高バドミントン部の今井選手が初の国際大会で銀・銅メダル

名電高校バドミントン部の今井大湧選手（三年）が、六月二十一～十八日に北アイルランドで開かれたアイリッシュ・パラバドミントン国際大会に出場し、シングルスで銀メダル、ダブルスで銅メダルを獲得しました。

大会には学園の海外遠征費補助を受けて出場し、上肢障がい立位の男子シングルスで準優勝したほか、正垣源選手と組んだ同クラスのダブルスでも三位の好成績を収めました。いずれもノーシードで出場しての快挙で、今井選手は「初めて臨んだ国際大会ですが、優勝を狙っていきました」と力強く振り返りました。

銀メダルの表彰を受ける今井大湧選手

東京パラリンピック出場目指す

今井選手は二〇二〇年東京パラリンピック強化指定選手に選ばれ、愛知県庁で開かれた認証式に指定選手の一人として出席。大村秀章知事から「東京パラリンピックに出場するという強い心で競技力の向上を」と激励されました。

ブラックバイトの実態学ぶ

実例を挙げ注意呼びかけ

大学キャリアセンターは七月二十五日、「ブラックバイト・企業の見分け方」と題した一、二年生向けの進路ガイダンスを八草キャンパス一号館のメディア視聴覚室で開きました。

通常の就職ガイダンスと異なり、ブラックバイトやブラック企業の実態について外部講師を招いて学ぶ本学で初めての試みです。講師を務めたのは、中部産業連盟キャリアコンサルタント・産業カウンセラーの深川晃利氏と税理士法人Bricks&UK代表社員の梶浦潮氏で、学生たちに「ブラック」な実例を次々と示しながら注意を呼び掛けました＝写真。

深川氏は「職場への過剰な組み込み」「最大限安く働かせる」「職場の論理に従属させる人格的な支配」といったブラックバイト特有のパターンを挙げながら「学生の責任感を逆手にとった要求がある」などと注意しなければならない点について説明しました。

梶浦氏は、企業の見分け方のポイントを「アルバイトに有給休暇を与えているか」「雇用契約書を用意しているか」「昇給のルールが明示されているか」と挙げる一方で「人生の糧となるアルバイトなら、お金を払ってでも働くべきだ」と自分自身で基準を決める大切さについても話しました。

社会人防災マイスター七人が講座〝卒業〟

社会人防災マイスター養成講座の修了式が七月二十六日、本山キャンパスであり、第八回となる本年度は企業から参加した七人が履修証明書を交付されました。この講座は、職場や地域での災害対策・被災者支援のリーダーとなる専門家養成を目的に、本学の地域防災研究センターが毎年開講しています。講義への出席と各科目レポートを総合評価し、全科目に合格した受講生に学校教育法に基づき後藤泰之学長から履修証明書を交付しています。

受講生は昨年十月から十か月間にわたり、自由ヶ丘と本山の両キャンパスで、本学や名古屋工業大学、大同大学の教員らの講師から「企業防災論」「防災学概論」などの講義を受けたほか、インターネットを利用したeラーニングや現場実習の防災フィールドワークに取り組みました。

修了式で、受講生は「それぞれの発表の企画力・行動力に感銘を受けた」「社会の力になれる喜びがあった」と感想を語り合いました。前センター長の正木和明客員教授から一人ひとりに履修証明書が手渡され、優秀賞が渡辺弘行さんに贈られました。

専門学校 延べ51人に奨学金

専門学校は、各種奨学金の交付式を六月二十八日と七月四日の二回に分けて同校四階の大教室で行いました。奨学金は五種類あり、対象者は延べ五十一人。交付式では稲垣愼二校長が一人一人に通知書を手渡し「勉学に励み、多くの資格を取得して皆さんの目的に向かって進んでください」と呼び掛けました。

六月二十八日の交付は入試奨学生が対象で、特別指定校推薦入試奨学生十三人、指定校・一般推薦入試奨学生十二人、AO一次入試奨学生二人の計二十七人＝写真㊤。七月四日は選抜奨学生が対象で、学業奨学生二十人と、遠隔地からの奨学生四人に交付されました＝写真㊦。

総研が共同研究の成果報告

総合技術研究所の第十回（平成二十七年度プロジェクト共同研究）シンポジウムが六月十七日、総合技術研究所視聴覚室で開かれました。産学連携の一環として二十二件のプロジェクト共同研究が進められている中、十九件について研究成果の報告などがありました。

はじめに後藤泰之学長が「企業と大学の双方向の関係を一層重要視していかなければならない」と挨拶し、土木工学科の山本義幸准教授による「多視点画像を活用した治山ダム設置検討システムの開発」から報告が始まりました。

順番に発表された研究の内容は、ライフログを活用したデジタルサイネージシステム、社会インフラ維持管理及び災害調査を目的としたクローラロボットの開発など多岐にわたり、具体的な研究の手法や知財の扱いなどについて活発に質疑が交わされました。

企業と共同で研究に取り組むプロジェクト共同研究は本学独自のマッチングファンドで、公募のうえ採択した研究を総合技術研究所が助成します。企業から提供された研究経費と同額、または全額を本学が支給し、得られた成果を毎年のシンポジウムで報告しています。

高校吹奏楽部　今年も全国大会へ

高校吹奏楽部は八月二十八日に浜松市で開かれた東海吹奏楽コンクールで金賞を獲得、十月二十三日に名古屋国際会議場で開かれる全国大会への出場が決まりました。

一方、同部のサマーコンサートは七月十五日に日進市民会館、十九日に名古屋国際会議場センチュリーホールでそれぞれ開かれ、出演メンバーが織りなす華やかな演奏が会場の吹奏楽ファンを魅了しました。

両会場ともプログラムは三部構成で、顧問の伊藤宏樹教諭が指揮しました。一部では二〇一六年度全日本吹奏楽コンクール課題曲の二曲と「モンタニャールの詩」を演奏。二部のステージドリルでは一糸乱れぬ隊列でステージを縦横に動き回り「ドラゴンクエストより　～序曲、果てしない世界、そして伝説へ～」など二曲を披露しました。

三部は、茶摘みや蛍来いといった演出が次々と登場する「みんなのうた〝夏〟メドレー」など、凝った内容。日進会場の「EXILEメドレー」では、客席の聴衆全員が配られたペンライトを振って一体になった演奏を楽しみました。

一年生部員が演出を考えた「みんなのうた“夏”メドレー」

昨年発表のCD「ブラバン！名電」で話題をまいた同部は、今年も十月に広島県で開かれる「西日本バンドフェスティバル」や、愛知県で十月二十九日～十二月三日に開催される「国民文化祭」の総合フィナーレで演奏が予定されているほか、夏休みに開かれた国民的人気ゲームのイベント「ドラゴンクエストライブスペクタクルツアー　名古屋公演」にも出演しました。

名電出身の親方・力士激励

名電出身の親方・力士を励ます会が七月十七日夜、若松親方（元朝乃若）、山分親方（元武雄山）と現役力士の大司（入間川部屋）、駒木龍（木瀬部屋）を迎え、名古屋市内のホテルでにぎやかに開かれました。

高校相撲部監督の澤田勉教諭らが呼び掛け、毎年、名古屋場所の中日に開いています。親方・力士の四人は、参加した相撲部OBや中高生部員らの拍手に迎えられ、両親方からはインターハイに出場する後輩たちに激励賞が贈られました。

大司

駒木龍

秋場所から幕下に復帰した大司は「全力で相撲ができる喜びを感じながら頑張っています」、三段目力士として名古屋場所を勝ち越した駒木龍は「トレーニング方法など工夫していますので、これからも応援していただければ」と、それぞれ近況報告しました。

新たに部活のマイクロバス

名古屋電気学園クラブ活動後援会と学園は、名電高校と附属中学のクラブ活動で共用するマイクロバスを新たに一台購入しました。各クラブの遠征や、学校と春日井総合運動場の行き来などに使用する車両は、これでマイクロバス二台、大型バス三台、ワゴン車一台となり、より効率良く運用できるようになりました。

購入したマイクロバスは学園の周年に合わせ「104」のナンバーを取得し、納車された八月三日に名古屋市熱田区の雲心寺で交通安全の祈祷を受けました。

交通安全の祈祷を受けるマイクロバス

インカレ卓球　男子は三位

第八十六回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）は七月六～九日に京都市の島津アリーナ京都で開かれ、大学男子卓球部は三位入賞、大学女子卓球部は六位入賞の成績でした。男子は準決勝で今大会優勝の明治大学と対戦、ダブルスの吉田雅己選手（経営学科四年）・吉村和弘選手（同二年）組がストレート勝ちしたほかは力及ばず、1―3で敗退。昨年に続く連覇はなりませんでした。

高校野球部　県大会準優勝

名電高校野球部は七月三十日、岡崎市の岡崎市民球場で行われた全国高校野球選手権愛知大会決勝で東邦高校と対戦、2―7で敗れ、昨年に続いての準優勝となりました。ノーシードから勝ち上がり、四回戦では昨年に甲子園出場を阻まれた中京大中京高校に雪辱を果たして勢いに乗りましたが、決勝は序盤から先行される苦しい展開に。六回一死二、三塁から秋山選手のスクイズ、八回の山崎選手の中前打で追い上げましたが、東邦のエースを攻略しきれませんでした。

【平成27年度決算の概要】

学校法人名古屋電気学園の平成２７年度決算の概要は、以下の通りです。

資金収支計算書（会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容と当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにしたもの）

「収入・支出の部合計」は２５２億４千万円となり、「施設関係支出」には、若水キャンパスの体育館及びグラウンドの新築費用が含まれています。

事業活動収支計算書（経常的な収支と臨時的な収支を区分し、経常的な収支は、更に教育活動収支と教育活動外収支に区分することによって、それぞれの収支状況を明らかにしたもの）

「教育活動収支差額」と「教育活動外収支差額」を合算した「経常収支差額」は、△４億３千万円となりました。「特別収支差額」は、建物等の取壊しによる資産処分差額の計上に伴い、△１億４千万円となりました。「経常収支差額」と「特別収支差額」の合計である「基本金組入前当年度収支差額」は、△５億７千万円となり、「基本金組入額」１４億８千万円を組入れた後の「当年度収支差額」は△２０億５千万円、「翌年度繰収支差額」は△８５億円となりました。

貸借対照表（年度末における資産、負債、純資産の財政状態を表すもの）

「資産の部合計」は６３７億円、「負債の部合計」は、６３億９千万円、基本金に繰越収支差額を合算した「純資産の部合計」は５７３億円となりました。

詳しくは、名古屋電気学園ホームページの「事業報告・財務状況【名古屋電気学園 - 学園の構成 - 法人情報】」をご覧ください。

資金収支計算書

（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

（単位：千円）

収入の部	
科目	決算
学生生徒等納付金収入	9,063,759
手数料収入	407,018
寄付金収入	68,826
補助金収入	1,326,122
資産売却収入	300
付随事業・収益事業収入	190,387
受取利息・配当金収入	44,581
雑収入	493,763
借入金等収入	0
前受金収入	1,642,445
その他の収入	701,768
資金収入調整勘定	△ 2,210,573
前年度繰越支払資金	13,515,461
収入の部合計	25,243,857

支出の部	
科目	決算
人件費支出	6,569,638
教育研究経費支出	2,770,730
管理費支出	657,212
借入金等利息支出	13,005
借入金等返済支出	293,239
施設関係支出	2,167,015
設備関係支出	548,289
資産運用支出	314,211
その他の支出	476,605
資金支出調整勘定	△ 626,331
翌年度繰越支払資金	12,060,244
支出の部合計	25,243,857

事業活動収支計算書

（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

（単位：千円）

		科目	決算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	9,063,759
		手数料	407,018
		寄付金	68,826
		経常費等補助金	1,265,379
		付随事業収入	190,387
		雑収入	491,952
		教育活動収入計	11,487,321
	事業活動の支出の部	人件費	6,571,889
		教育研究経費	4,547,985
		管理経費	829,327
		徴収不能等	0
		教育活動支出計	11,949,201
	教育活動収支差額		△ 461,880
教育活動外収支		科目	決算
	事業活動収入の部	受取利息・配当金	44,581
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	44,581
	事業活動支出の部	借入金等利息	13,005
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	13,005
	教育活動外収支差額		31,576
経常収支差額			△ 430,304
特別収支		科目	決算
	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	135,920
		特別収入計	135,920
	事業活動支出の部	資産処分差額	274,191
		その他の特別支出	458
		特別支出計	274,649
	特別収支差額		△ 138,729
基本金組入前当年度収支差額			△ 569,033
基本金組入額合計			△ 1,484,880
当年度収支差額			△ 2,053,913
前年度繰越収支差額			△ 6,495,336
翌年度繰越収支差額			△ 8,549,249

（参考）

事業活動収入計	11,667,822
事業活動支出計	12,236,855

貸借対照表

（平成28年3月31日）

（単位：千円）

資産の部	
科目	決算
固定資産	51,114,504
流動資産	12,621,482
資産の部合計	63,735,986
負債の部	
科目	決算
固定負債	3,571,302
流動負債	2,815,791
負債の部合計	6,387,093
純資産の部	
科目	決算
基本金	65,898,142
繰越収支差額	△ 8,549,249
純資産の部合計	57,348,893
負債及び純資産の部合計	63,735,986